

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972500577		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム ひのきの里		
所在地	高知県高岡郡津野町黒川740番地6		
自己評価作成日	平成23年5月11日	評価結果 市町村受理日	平成23年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念・方針として「すべての人々に希望と光、心の安らぎを」を掲げ、低所得者対策として利用料金を低額に設定し誰でも気軽に入居できるシステムを取っている。事業所の理念として「共に支え合い笑顔の見える穏やかな生活」を掲げ職員一同一丸となり入居者が安心して生活を継続していただけるように援助させていただいている。また、5年以上の職員が9名と半数を超えており、入居者と馴染みの関係を構築出来ている。

平成22年度を以て、隣接の幼稚園が閉園してしまったが、平成22年度は幼稚園児と交流する機会も持つことが出来た。近隣の小学校主催の「ふれあいまつり」には、毎年参加させて頂き、入居者数名と職員で「ぜんざい」を販売し売上げを小学校へ寄付している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3972500577&SCD=320&PCD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会		
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ		
訪問調査日	平成23年6月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から間もなく7年目を迎える事業所は、高台の学校跡地に立地する町内唯一のグループホームである。利用者と職員のほとんどが町内出身者で、顔見知りが多く、職員の異動も少ないことから馴染みの関係ができています。また、明るく、整理整頓が行き届いた清潔感のある事業所内でのゆったりとした生活や毎日の入浴支援等により、利用者は落ち着いた毎日を送っている。そのことが利用者の安心感や職員との信頼関係を醸しだし、利用者の穏やかな笑顔にも現れている。ただ、今年3月に隣接の幼稚園が閉園したため、毎日、子供達の声を聞き、姿を見て喜びを感じていた利用者にとっては、少なからずダメージがあり、表情に少し変化が見られる利用者もいる。そのため、地域の小学生に事業所を訪問してもらい利用者を写生してもらったり、事業所からも小学校の行事に参加するなど、子供たちとの交流の場を広げる努力をしている。今後は、少し離れた場所に統合した幼稚園の園児達との「ふれ合い」が課題であり、どのような交流ができるのか目下模索中とのことである。地域密着型サービス事業所として行政、地域住民から信頼され期待されている事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:えびね棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスとして、暮らしを支える理念「共に支え合い笑顔の見える穏やかな生活」を理念に掲げ全職員で理念を確認し理念に添った暮らしに取り組んでいる。	地域の中で共に支え合うという理念を作り、毎日の申し送り時やカンファレンスの際に理念を振り返り確認することで、日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園や小学校の行事に参加したり、事業所へ訪問してもらい交流を深めている。また、地域の方とも、散歩中に会話したり、野菜の差し入れを頂く等、交流できている。	地域住民がたくさん参加する小学校主催の「ふれあいまつり」に毎年参加し、利用者と住民のつながりが継続できるように努めている。また、近隣住民からは普段から野菜の差し入れをもらうなど、自然体での地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議や認知症家族の会等の話し合いの場に積極的に参加したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進委員会議を実施している。会議で出た意見や検討事項について職員会で報告、検討している。いただいた意見に対しては実行できるように取り組み、次の会で経過報告している。	事業所からは利用者の生活状況や行事等の内容を報告し、参加メンバーからは積極的に意見や質問が出され、双方向的な会議になっている。町内で唯一のグループホームであることから、行政は必ず出席し、情報提供などを含め多くの意見も出され、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での報告はもちろんのこと、日々のケアでの困難事例等、市町村との連携が図れるよう努めている。	地域包括支援センターのケアマネージャーを中心として入居の申請に繋がるケースなどの情報交換や相談をするほか、町内唯一のグループホームとして行政との連絡を密にし、些細なことでも互いに情報の提供を行い、連携を深める努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での身体拘束のマニュアルを基に、身体拘束をしないケアが実践できるよう努めている。また、入居時には身体拘束に対する説明を行い理解を頂いている。	職員は研修に積極的に参加し、身体拘束をしないケアの取り組みについての理解を深めており、原則として身体拘束はしないという方針で日々のケアに取り組んでいる。外出傾向のある利用者の状況も把握しており、声かけをして様子を見るなど、拘束することなく、その人らしく生活できることをモットーに支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組みを行っており、勉強会等への参加や職員会等を活用し、虐待についての知識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で取り組みを行っており、勉強会等への参加や職員会等を活用し、知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、入居契約書等を基に、ご家族が不安を持つことがないように、不明な点はないか確認しながら説明を行っている。入居前や面接時にも事前に出来る説明をできる限り行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の介護場面、ご家族の来訪時に職員が意向を聞いたり、意見を言いやすい環境を作っている。運営推進会議にも参加していたが、市町村や家族、地域の方にも入居者の意見や要望を表せる機会を作っている。	家族会は年3回開催している。ほとんどが町内の住民であり参加者も多く、家族も顔見知りであることから、ざっくばらんで和やかな会になっている。ただ、職員が同席していることから、お世話になっているという気持ちが家族の方にもあり、事業所に対する意見は特に出していない。	事業所から家族だけの話し合いを提案しても、家族の方から「同席して欲しい」との返事があったとのことであるが、家族の忌憚のない意見を引き出すためにも、家族だけで話し合える場面設定等工夫することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて意見をきくようにしている。また、日々の業務中でも気軽に意見が言えるような環境をつくり、職員の意見を反映させた運営を心がけている。	職員の意見としては、利用者の「衣替え」など日々のケアに関する内容が多いが、運営体制のことなども含め、毎月の職員会、毎朝の申し送り時などに職員から意見を聞き、運営に反映させている。また、管理者から職員に声をかけることにより、全員の意見を反映できるようにも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や業務状況を把握し、無理なく業務がこなせるよう努めている。また、勤務表も職員の希望を聞き出来る限り反映している。向上心を持って働けるよう日々の声かけも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に人事教育部を設置しており、研修や勉強会を無償で行っている。また、外部の研修についても職員間で共有し、積極的な参加を呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会に積極的に参加を促し、同業者との交流が図れるよう努めている。また、研修内容を報告してもらい実践にいかせるよう努力している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面接を行い、心身の状態の把握や本人の思いを受容するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ずご家族と面会を行い、入居者本人のこれまでの生活歴や入居申し込みに至る経緯を把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センター等を通じての相談が多く、必要とする支援を見極めたうえでの入居となっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の言動や行動からその時の思いを探り、根本にある喜びや不安等を知る事に努めている。また、一緒に活動することで、入居者に教えられることも多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて、本人の日頃の状態等を報告し情報を共有することで、本人を支えていく為の協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望により、友人等が面会に来ていただけるようご家族や友人の方に協力していただいている。入居時には、生活歴や人間関係等の把握に努めている。	定期的に友人・知人の面会を受け、また、多くの住民が参加する地区の小学校主催の「ふれあいまつり」に参加して、顔見知りの知人との「出会い」や「会話」を楽しむなど、馴染みの人との関係継続に努めるようにしている。また、行きつけの理美容院等には家族と行ったり、職員が送迎するなどして、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について、職員間で情報交換し関係が円滑になるように働きかけている。心身の状態や気分で感情が変化することもある為、常に注意し見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、他の事業所に移られた時には、出来る限り面会に行き、築いた関係性を大切にしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の言動や行動、会話を通して、希望、意向の把握ができるよう努めている。	利用者一人ひとりの思いや意向は、日々の暮らしの中での会話、表情、仕草などからくみ取るよう心懸けている。把握が困難な場合は、家族や関わりのあるケアマネージャーに聞くなどし、職員間でも話し合い、本人の意向に沿えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションを通して、生活歴の把握に努めている。また、家人や知人等の訪問時に可能な範囲で会話をし、これまでの生活環境をお聞きしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ひとりひとりの生活リズムを理解し、日々の些細な変化も見逃さないよう支援している。また、本人ができることを見出せるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でのカンファレンスを実施し、入居者個々の現状に即した介護計画を作成している。	毎月の職員会でカンファレンスを行い、家族の意見や要望は来訪時などに聞き、介護計画に反映させている。また、状態の変化により介護認定の区分変更の申請をするなど、必要に応じてその都度計画の見直しも行っているが、立案された介護計画の職員への周知やモニタリングへの職員の参加が徹底されていない。	モニタリングへの職員の参加も含めチームで作成し、チームで実践する介護計画の実現を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事、排泄、水分、服薬、身体状況等、日々の暮らしの様子を記録している。また、職員で情報を共有する為に、申し送りノートを活用し、全職員が確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院等の必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公的機関やボランティアに対し、協力を呼びかけ、地域に根ざした生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の訪問診療や病状に応じて専門科への受診対応は行っている。定期的な受診に対しては基本的にご家族に依頼しているが、ご家族の都合にて随時職員が対応している。	協力医療機関からの往診は2週間毎にあり、以前からのかかりつけ医には家族同伴で受診している。また、緊急時や家族同伴が困難な場合は職員が同伴するなど、臨機応変に対応している。受診結果については電話連絡や申し送りノートで情報を共有し、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と医療連携をとっており、24時間連絡できる体制にあり、相談・指示を仰げる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院のソーシャルワーカーやご家族との連絡を密にとり、できる限り早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として看取りの指針があり、看取り介護に取り組む体制ができている。ご家族や主治医・看護師等連携を図り、住み慣れた環境での終末期を迎えられるよう努めている。	利用者、家族に「重度化対応指針」を説明するとともに、「看取り介護マニュアル」を作成し、利用者の状況に応じて、家族の意向を聞きながら、関係者と話し合って支援している。過去に看取りの事例が1件あり、住み慣れた環境で終末期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、2年に1回消防署による普通救命救急講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の各棟に防災無線を設置している。消防署や地元消防団員の協力を得て、通報、避難、消火訓練を行っている。	防災訓練は年2回行い、うち1回は夜間を想定して実施している。運営推進会議に参加している地区代表者が呼びかけて地域住民の参加も得られている。非常用食品及び備品については、質、量ともに不足しており、通常物品との区分等も明確ではない。	高知県社会福祉施設地震防災対策マニュアルなどを参考にして、非常用食品、備品の必要量の確保及び管理方法等の見直しが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は日々、入居者と同じ空間で過ごし、入居者の状況を把握するように努めている。また、入居者のプライバシーやプライドを傷つけないように対応することを徹底している。	トイレ誘導時等、利用者の人格を損ねないように、声かけの仕方やタイミングに配慮して支援している。申し送り時などにも、利用者のプライバシーの尊重等お互い気付いたことを話し合い、日々のケアに役立てるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入居者の状態に合わせた声かけを行っている。希望や思いを引き出せるように複数の選択肢を与えられる声かけを行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりを通じて、本人との会話や行動、表情から気持ちを読み取り、本人の希望にそった援助に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援できるよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳や片付け等可能な活動を促し、職員と一緒にしている。出来たことへの自信にもなっている。	食事の下ごしらえから後片づけまで、利用者の出来ることを出来る人が行い、献立については、栄養士が旬のものを選び、入居者の嗜好や行事に合わせたもの等を探り入れ、和やかな雰囲気楽しく食事ができるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面は管理栄養士がバランス良く献立を立てており、食事摂取量や水分量は確認しやすいようチェック表を作成し、摂取状態を把握。摂取量が少ない方には摂取しやすいものを準備するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にケアを行うようにしており、できる方は声掛け見守りを行い、ケアが不十分な方には、援助し清潔を保ち、嚥下障害による肺炎の防止などにも努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレで気持ちよく排泄できるよう、個々に合わせた声掛け・誘導を行っている。	排泄チェック表や習慣等により、個々の利用者の排泄パターンを把握している。食事の前やレクリエーションの後などに定時誘導を行い、トイレで排泄できるように支援している。病院から入居した利用者で、オムツから布パンツになった事例もあり、現在5名の利用者が日中布パンツを使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取する事や、身体を動かす事で排便を促している。それでも便秘傾向の方には、個々に合わせて下剤を併用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の状況から個々の希望やタイミングに合わせての入浴は難しいが、本人の身体状況を確認し、毎日の入浴を楽しむ事が出来るよう支援している。	ほとんどの利用者が毎日午後入浴している。入浴を拒否する利用者には、声かけのタイミングや人を変えるなどして対応しており、入浴支援で苦勞することはほとんどない。体調不良などの場合は、清拭やシャワー浴などを利用し、清潔を保てるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り、日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。その日の体調や表情を見極め、その状況に応じた対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルにし保管。職員が入居者の服用中の薬を確認できるようにしている。また、薬が変更された時は、申し送りノートに記載し、変更内容を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ることや好きな作業を見つけ出し、季節の山菜の皮剥きや干し柿づくりなど、入居者の経験や知恵を発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は、散歩に出かけたりしている。年間行事にて、出来る限り外出の機会を設け気分転換を図っている。	車椅子利用者も含め、利用者は毎日事業所周辺を散歩している。また、年間行事として、家族会の後で法人のバスを利用して花見や食事に行ったり、それぞれの利用者の希望に合わせて、職員が付き添い、買い物等に行くなど、できるだけ戸外に出かけるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所が管理しているが、買い物や外出時には、本人が直接支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、直接家族に電話をかけて、会話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や交流スペースに季節の花を飾ったり、食堂から見える花壇に花を植え季節を感じられるように工夫している。	玄関等には季節の花を飾り、共用空間は明るく清掃も行き届き、テーブルやソファなども安全や使い易さに配慮して配置している。また、ゆったりくつろげる空間として和室を設けるなど、利用者が居心地良く暮らせるように工夫している。壁には、町内の小学生のメッセージ入りの絵が貼られるなど地域との繋がりが、温かさも伝わってくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを置き、常時、花を活ける等、居心地の良い空間を作るようにしている。また、食堂にソファを置き、気の合う者同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や位牌、使用されていた筆筒を持って来られている方もあり、一人一人の好みに合わせた居室で過ごしていただいている。	居室には、利用者が使っていたタンスや衣装ケースを置き、タンスの上には家族の写真、壁には、カレンダーや小学生が描いた絵を飾り、思い出や現在の生活につながる物に囲まれ、居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのわかる力を見極めて、不安や混乱を招くような環境等について検討し、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮したりしている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名：やまがら棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスとして、暮らしを支える理念「共に支え合い笑顔の見える穏やかな生活」を理念に掲げ全職員で理念を確認し理念に添った暮らしに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園や小学校の行事に参加したり、事業所へ訪問してもらい交流を深めている。また、地域の方とも、散歩中に会話したり、野菜の差し入れを頂く等、交流できている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議や認知症家族の会等の話合いの場に積極的に参加したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進委員会議を実施している。会議で出た意見や検討事項について職員会で報告、検討している。いただいた意見に対しては実行できるように取り組み、次の会で経過報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での報告はもちろんのこと、日々のケアでの困難事例等、市町村との連携が図れるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体での身体拘束のマニュアルを基に、身体拘束をしないケアが実践できるよう努めている。また、入居時には身体拘束に対する説明を行い理解を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組みを行っており、勉強会等への参加や職員会等を活用し、虐待についての知識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で取り組みを行っており、勉強会等への参加や職員会等を活用し、知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、入居契約書等を基に、ご家族が不安を持つことがないように、不明な点はないか確認しながら説明を行っている。入居前や面接時にも事前に出来る説明をできる限り行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の介護場面、ご家族の来訪時に職員が意向を聞いたり、意見を言いやすい環境を作っている。運営推進会議にも参加していただき、市町村や家族、地域の方にも入居者の意見や要望を表せる機会を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて意見をきくようにしている。また、日々の業務中でも気軽に意見が言えるような環境をつくり、職員の意見を反映させた運営を心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や業務状況を把握し、無理なく業務がこなせるよう努めている。また、勤務表も職員の希望を聞き出来る限り反映している。向上心を持って働けるよう日々の声かけも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に人事教育部を設置しており、研修や勉強会を無償で行っている。また、外部の研修についても職員間で共有し、積極的な参加を呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会に積極的に参加を促し、同業者との交流が図れるよう努めている。また、研修内容を報告してもらい実践にいかせるよう努力している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面接を行い、心身の状態の把握や本人の思いを受容するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ずご家族と面会を行い、入居者本人のこれまでの生活歴や入居申し込みに至る経緯を把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センター等を通じての相談が多く、必要とする支援を見極めたうえでの入居となっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の言動や行動からその時の思いを探り、根本にある喜びや不安等を知る事に努めている。また、一緒に活動することで、入居者に教えられることも多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて、本人の日頃の状態等を報告し情報を共有することで、本人を支えていく為の協力関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望により、友人等が面会に来ていただけるようご家族や友人の方に協力していただいている。入居時には、生活歴や人間関係等の把握に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について、職員間で情報交換し関係が円滑になるように働きかけている。心身の状態や気分で感情が変化することもある為、常に注意し見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたり、他の事業所に移られた時には、出来る限り面会に行き、築いた関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の言動や行動、会話を通して、希望、意向の把握ができるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションを通して、生活歴の把握に努めている。また、家人や知人等の訪問時に可能な範囲で会話をし、これまでの生活環境をお聞きしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ひとりひとりの生活リズムを理解し、日々の些細な変化も見逃さないよう支援している。また、本人ができることを見出せるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でのカンファレンスを実施し、入居者個々の現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事、排泄、水分、服薬、身体状況等、日々の暮らしの様子を記録している。また、職員で情報を共有する為に、申し送りノートを活用し、全職員が確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院等の必要な支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公的機関やボランティアに対し、協力を呼びかけ、地域に根ざした生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の訪問診療や病状に応じて専門科への受診対応は行っている。定期的な受診に対しては基本的にご家族に依頼しているが、ご家族の都合にて随時職員が対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と医療連携をとっており、24時間連絡できる体制にあり、相談・指示を仰げる体制にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院のソーシャルワーカーやご家族との連絡を密にとり、できる限り早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として看取りの指針があり、看取り介護に取り組む体制ができています。ご家族や主治医・看護師等連携を図り、住み慣れた環境での終末期を迎えられるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、2年に1回消防署による普通救命救急講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所の各棟に防災無線を設置している。消防署や地元消防団員の協力を得て、通報、避難、消火訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は日々、入居者と同じ空間で過ごし、入居者の状況を把握するように努めている。また、入居者のプライバシーやプライドを傷つけないように対応することを徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入居者の状態に合わせた声かけを行っている。希望や思いを引き出せるように複数の選択肢を与えられる声かけを行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりを通じて、本人との会話や行動、表情から気持ちを読み取り、本人の希望にそった援助に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣に合わせて支援できるように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳や片付け等可能な活動を促し、職員と一緒にしている。出来たことへの自信にもなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面は管理栄養士がバランス良く献立を立てており、食事摂取量や水分量は確認しやすいようチェック表を作成し、摂取状態を把握。摂取量が少ない方には摂取しやすいものを準備するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にケアを行うようにしており、できる方は声掛け見守りを行い、ケアが不十分な方には、援助し清潔を保ち、嚥下障害による肺炎の防止などにも努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレで気持ちよく排泄できるよう、個々に合わせた声掛け・誘導を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取する事や、身体を動かす事で排便を促している。それでも便秘傾向の方には、個々に合わせて下剤を併用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の状況から個々の希望やタイミングに合わせての入浴は難しいが、本人の身体状況を確認し、毎日の入浴を楽しむ事が出来るよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り、日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。その日の体調や表情を見極め、その状況に応じた対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルにし保管。職員が入居者の服用中の薬を確認できるようにしている。また、薬が変更された時は、申し送りノートに記載し、変更内容を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ることや好きな作業を見つけ出し、季節の山菜の皮剥きや干し柿づくりなど、入居者の経験や知恵を発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は、散歩に出かけたりしている。年間行事にて、出来る限り外出の機会を設け気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所が管理しているが、買い物や外出時には、本人が直接支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、直接家族に電話をかけて、会話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や交流スペースに季節の花を飾ったり、食堂から見える花壇に花を植え季節を感じられるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを置き、常時、花を活ける等、居心地の良い空間を作るようにしている。また、食堂にソファを置き、気の合う者同志でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や位牌、使用されていた筆筒を持って来られている方もあり、一人一人の好みに合わせた居室で過ごしていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのわかる力を見極めて、不安や混乱を招くような環境等について検討し、必要な目印をつけたり、物の配置に配慮したりしている。		

アウトカム項目は各ユニットごとに作成してください

ユニット名:えびね棟

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します						
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	
					1. ほぼ全ての利用者の	1. ほぼ全ての家族と
					2. 利用者の2/3くらいの	2. 家族の2/3くらいと
					3. 利用者の1/3くらいの	3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない	4. ほとんどできていない			
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	
					1. 毎日ある	1. ほぼ毎日のように
					2. 数日に1回程度ある	2. 数日に1回程度
					3. たまにある	3. たまに
		4. ほとんどない	4. ほとんどない			
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	
					1. ほぼ全ての利用者が	1. 大いに増えている
					2. 利用者の2/3くらいが	2. 少しずつ増えている
					3. 利用者の1/3くらいが	3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない	4. 全くいない			
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	
					1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての職員が
					2. 利用者の2/3くらいが	2. 職員の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが	3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない			
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	
					1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての利用者が
					2. 利用者の2/3くらいが	2. 利用者の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどいない			
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	
					1. ほぼ全ての利用者が	1. ほぼ全ての家族等が
					2. 利用者の2/3くらいが	2. 家族等の2/3くらいが
					3. 利用者の1/3くらいが	3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない	4. ほとんどできていない			
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○				
			1. ほぼ全ての利用者が			
			2. 利用者の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない				

アウトカム項目は各ユニットごとに作成してください

ユニット名:やまがら棟

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない